

男女共同参画



Special Feature 1

特集1 / 理工系分野で活躍する STEM Girls Ambassadors

Special Feature 2

特集2 / 夏のリコチャレ 2019 ～理工系のお仕事体感しよう！～

Special Feature 3

特集3 / 活躍する女性たち～公務員の現場から



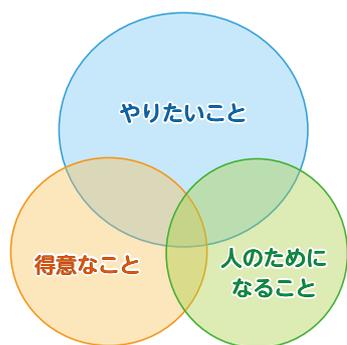
共同参画に寄せて

foreword

一人ひとりが大切にされる新しい時代を生きる

「理系」と「文系」、この違いはいったい何でしょうか。数式や法則を使って定量的に物事を捉え未来を考えるのが理系、人を対象として定性的に過去の事象を捉えるのが文系という説もあります。一昨年の内閣府委託の調査研究では、文系に対する中学生の印象は「日常生活で役に立つ」が多く、理系の印象は「知識や技能が習得できる」、「就職して高い給料が得られそう」が多いという結果が得られました。つまり、文系は日常生活の知、理系は職業の知という印象を多くの中学生が持っているということです。

この印象は、理系には男性が多く、文系には女性が多いという傾向につながっていると考えられます。女性が仕事より日常生活に興味を持ち、男性はむしろ仕事に興味を持つというのは、高度経済成長を成し遂げた昭和時代の生き方であり、その印象が今も残っている結果かもしれません。



これから日本は人口縮小の時代を迎えます。大量生産、大量消費、大量廃棄の時代から抜けだし、一人ひとりの個性が尊重される時代をどのように迎えるのか、今の時代に生きる私たちの責任です。「女子は文系」という古き印象から脱却し、本当にやりたいこと、自分が得意なこと、人のためになることに迷わず進める、そしてそれが過去にない学問なら新しい学問を作ればよい、そんな社会を実現できたら、多くの人の幸せにつながる未来を築くことができるのではないのでしょうか。



国立研究開発法人 科学技術振興機構
副理事
渡辺 美代子
Miyoko Watanabe

目次

Contents

Special Feature	特集1 理工系分野で活躍する STEM Girls Ambassadors	page 02
Special Feature	特集2 夏のリコチャレ2019 ～理工系のお仕事体感しよう！～	page 06
Special Feature	特集3 活躍する女性たち～公務員の現場から	page 08
Topics	行政施策トピックス 行政相談委員の仕事	page 11
News & Info	ニュース&インフォメーション NWEC 2019年度「男女共同参画推進フォーラム」実施	page 12



理工系分野で活躍する STEM Girls Ambassadors

内閣府男女共同参画局総務課



マダム、これが俺たちのメトロだ！

オリエンタルコンサルタンツ インド現地法人取締役会長

阿部 玲子氏

ある日曜日

私は日曜日にインドの庶民の足であるオートリキシャに乗って街に買い物に出かけた。道はメトロ工事のため渋滞しており、遅々として進まない。突然、オートリキシャのドライバーが建設現場を指さし「マダム、これが俺たちのメトロだ!」と、外国人である私に自国のメトロを自慢したのだ。その国の人に自慢してもらえる、自分はそんな仕事に携わっているという事が、今でも私のモチベーションとなっている。



四面楚歌

土木工学を学び、建設会社への就職を希望したのは30年前。当時の建設会社は女性の総合職に門戸が開かれておらず、女性であるという理由だけで面接さえ受けられない日々が続いた。紆余曲折ありながら、ようやく建設会社に就職できた。しかし入社してからも「女性がトンネルに入ると山の神様が怒って山が崩れる」との言い伝えもあり、建設現場に入れてもらえずデスクワークでの日々が続いた。男性社員は現場での経験を積み重ねていく。でも、私は現場経験もなく、なかなか将来図が描けない。

何かを目指すと女性であることで阻まれる。そんなことの繰り返しだった。なかなか思うようにいかず、悔しくて落ち込んでいる私に、「四面楚歌って言うけど天井は開いてるよ」と母がささやいた。女性であることは変えられない。でも突破口はあるはずだ。土木エンジニアが苦手としている英語を武器にしよう。日本がダメなら海外でトンネルを掘ろう。四面楚歌、でもどこかは開いている!

海外への挑戦、そしてインドへ

私はノルウェーに留学し、留学後はノルウェーのトンネル現場で研修を重ね、ついに台湾新幹線のトンネルプロジェクトに参加できる機会を得た。4年間、新幹線プロジェクトに従事し、ようやく自信がつき始めた頃、海外事業の受注が少なくなり、同僚たちは次々と国内にシフトしていく。日本国内の現場経験のない私はリストラの対象となった。落ち込むより先に、「何か突破口はあるはずだ」と就職活動に着手し、海外建設コンサルタントに再就職が決まり、2007年からインドへの挑戦が始まった。

安全は日本から

インドの建設現場ではワーカーの多くはヘルメットなど被らないし、普段着のままで裸足で歩き回っている者も珍しくない。このような状態から、メトロ現場では安全3点セット(ヘルメット・安全チョッキ・安全靴)の着用を徹底した。

ここに至るまでには、多大な努力が必要だった。日本のゼネコンとコンサルタント、そしてメトロ公社が三位一体になって初めてこの安全管理の改善に着手できたといえる。まず安全3点セットの着用

Report

内閣府男女共同参画局では、女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援しています。そこで、理工系分野で活躍するSTEM Girls Ambassadors(理工系女子応援大使)からお二方に、実際のお仕事の様子ややりがい、苦労話などをお伺いしました。

を徹底しようと、一括購入してワーカーに配布した。ところが、関係者全員に支給したにも関わらず、一向に着用しない。着用しない理由を聞いてみると、「新品なので家に保管してある」と答えたのだという。この事態を受けて、3点セットを着用していない者は現場に立ち入れないという強硬策に出た。ワーカーは現場に入れなければ日当をもらえない。但し、地元の建設会社の雇用契約に関連するので、いくら日本の建設会社がリーダーでも、一存で決められるものではなく、3点セット着用の意義をメトロ公社に対し説明して同意を得て、新たなルールが導入され、安全3点セットの着用習慣が浸透していった。今ではインドにおいて、きちんとヘルメットをかぶっている工事現場を見かけたら、それはメトロの建設現場に間違いはない。



メトロに乗ろう

メトロ完成前の主な交通手段はバスと車とオートバイだったが、現在はメトロが最多となっている。市民がメトロを使う理由に「時間の節約」「快適さ」を挙げている。現在、デリーメトロは1日当たり約470万人もの人々が利用していて、多くの市民にとって重要な交通手段となっているのは間違いはない。



また、インドではメトロは女性が安心して利用できる初めての公共交通機関であると言われており、メトロ導入が女性の社会進出の後押しになっている。現在、インドのメトロの先頭車両が女性専用車両になっていて、各車両には防犯カメラと非常通報装置が設置されている。デリーメトロ公社自体も、女性の雇用推進に乗り出し、主要な駅には女性警備員と女性駅員が配置されている。メトロは女性の活動範囲を広げ、女性の移動の自由や社会進出に貢献している。



メトロ・マダムと呼ばれて

弊社では300名弱のインド人スタッフを雇用しており、日本人である私についてきてくれている。これは決して私個人の力ではなく、先人の日本人エンジニアの方々が、この異国の地で積み重ねてきた信頼があり、そして確かな技術力を示してきてくださったからこそ、人々がついてきてくれているのだと思う。

私は現場ではメトロ・マダムと呼ばれている。この名前に負けないように、先人達の経験を踏襲し、そして新しいことを加えて、インドの方々にお渡しする。そんなマダムになれるよう、今日もまた挑戦を続けていきたい。



願いを叶える力、 新しいものを作る力が身につく工学系

H2L創業者／博士／JSTさきがけ研究員／早稲田大学准教授

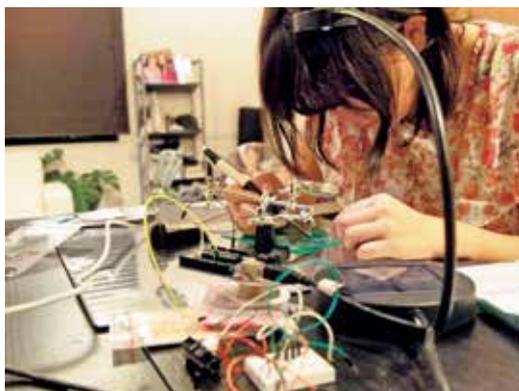
玉城 絵美氏

現在の仕事は

H2Lの創業者として、また早稲田で准教授としても研究開発をしています。また、女性活躍を推進するためにSTEM Girls Ambassadorとしても活動しています。

研究開発では、自分の部屋にしながら、VRのキャラクターやロボットの体を通じてさまざまな体験を共有するBodySharingというビジョンを実現しようとしています。このビジョンを実現するため、様々なプロジェクトを実施しているため、「職業名は？」と言われると明言し辛い仕事でもあります。

一般に仕事とは会社に行くイメージがありますが、私はビジョンを実現するために、会社だけでなく大学や自宅で、様々なプロジェクトと関わりながら研究開発をしています。BodySharingを普及するために、プログラミングや精度実験だけでなく、認知心理学的な実験、回路設計、シミュレーション、マネージメント、マーケティングまで多岐にわたる研究開発をしています。



現在の仕事につかれるまでの経緯は

高校時代の入院生活がきっかけとなっています。入院生活、引きこもりの私は結構楽しかったのですが、外の体験はしたかったので、そのための研究をしようと思いました。

琉球大学へ行き、筑波大学 大学院で研究をしていく中で、研究だけでなくそれをビジネスとして世の中に普及していかなければと感じました。

東京大学の院に行き、同様の志を持った後輩の岩崎と出会い、東大のベンチャーキャピタルのインターンや、未踏の開発プロジェクトを実施し、研究だけでなく起業準備をしました。その後、BodySharingを実現するための研究成果 PossessedHandを発表し、H2Lを創業しました。

仕事のやりがい

自分のやっている研究や、ビジョンが結果としてでてくることにやりがいを感じます。研究結果は、自分が思った通りに行けば嬉しいですが、結果が予想通りでなくても嬉しいです。その結果をなぜだろうと考えて、また次に繋げることができます。

また、自分が研究したものが会社で製品というかたちになり、世の中に出てたくさんの人に届くこともやりがいを感じます。

UnlimitedHandやFirstVRも、販売した当日に予約が殺到したり、そうして広がっていくということも嬉しいです。

ネットのおかげで、結構ユーザーさんの反応がうけとりやすくなっている。世に出ていく技術に対して、フィードバックはすぐに受け取れるようになって

理工系分野で活躍する STEM Girls Ambassadors

内閣府男女共同参画局総務課

てきた。製品なら、もっと小型にした方がよいのかな、とかを素早く次の製品に落とし込めるのが良いですね。

大変なこと

みんなが欲しいものと、自分がやりたいことをそこに加えていくといったバランスが難しいなと思っています。

たとえばPossessedHandを発表したときは、「きもちわるい」と言われ、あまり受け入れてもらえませんでした。そのとき自分のビジョンだけでは世の中に広がっていくのが難しいと感じ、起業をして、VRへ研究技術を応用し、技術の有用性も同時にアピールしていくようにしています。

理系に進もうかと悩んでいる後輩女子に

みなさん、自分の夢とか、自らの欲望があると思います。私の場合は、家から出ないで引きこまれる世の中にしたいと思っています。願いを叶える、新しいものを作る力が身につくのが、私のいる工学系です。工学系は男性が多いのですが、女性もすこしずつ増えています。

現在、今までのメジャーな視点ではなく、新しい視点で世の中をみれる人が求められています。工学系でいう女性は、そういった意味で今求められている存在だと感じます。

是非工学系で、自分の願いを叶えるため進んでみてください。

PossessedHandとは

PossessedHandは、使用者に手の動き(ハンドジェスチャー)で情報提示する装置です。腕に巻いた2枚のベルトから前腕の筋肉に電気刺激を与え、手指の動きを制御します。前腕の筋肉は手指の腱につながっており、その筋肉を収縮することにより、手指を動作させることができます。

現在は、琴の演奏を支援するアプリケーションが開発されています。

PossessedHandが演奏時にどの指をどのタイミングで使うのかの情報を提示してくれます。



PHOTO BY KAORI NISHIDA



「PossessedHand」の実物の人間による実装風景

STEM Girls Ambassadors(理工系女子応援大使)

2018年6月、(当時)野田内閣府特命担当大臣(男女共同参画)から、理工系分野で活躍する女性が、「STEM Girls Ambassadors(理工系女子応援大使)」として委嘱されました。

理工系分野における女性活躍を目指し、女子生徒等の理工系分野への進路選択促進のためには、多様なロールモデルを示すとともに社会全体で応援する機運醸成を図る必要があります。STEM Girls

Ambassadorsは、講演会等を通じて、このムーブメントを全国的に広げていきます。

※STEM = Science, Technology, Engineering and Mathematics

現在、寄稿していただいた渡辺美代子氏、阿部玲子氏、玉城絵美氏を含め7名のSTEM Girls Ambassadorsに活動をお願いしています。

夏のリコチャレ2019 ～理工系のお仕事体感しよう！～

内閣府男女共同参画局推進課

内閣府・文部科学省・日本経済団体連合会(以下:経団連)は共催で、2019年7月より夏休み期間に、女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援するため、「夏のリコチャレ2019～理工系のお仕事体感しよう!～」を実施しました。これは、経団連加盟企業や大学等が、主に女子中高生等を対象とした理工系の職場見学、仕事体験、施設見学など多彩なイベントを開催し、その情報を内閣府「理工チャレンジ(リコチャレ)」サイトを活用し、積極的に社会へ発信する取組です。

今年は100団体が参加しました。企業や学術団体等のイベントや、大学の実験教室、先輩学生との交流会等179のイベントが全国で実施され、約36,000名の女子中高生、大学生、保護者等が参加しました。

1. 実施の背景

本格的な人口減少社会を迎える中、理工系分野における女性の活躍は、世界最先端の科学技術立国を目指す我が国が、持続的な成長を確保し、さらに多様性によるイノベーションの創出によって社会の様々な問題解決を図る上で、極めて重要です。しかしながら、我が国の研究者における女性比率は16.2%^{※1}と、諸外国に比べて低い水準に留まっています。また、大学学部生における女性比率も、理学系で27.9%^{※2}、工学系で15.4%^{※2}と大きな偏りが見られます。

これに対し、「幼少期に科学に触れる機会」が、その後の理科への得意意識や学習意欲の獲得に繋がると考えられ、また、具体的な職業など進学の先にある進路について幅広く情報提供を行うことも、理工系進路選択の支援において有効と考えられます。内閣府では、理工系の面白さや職業に触れる機会を提供し、理工系進路選択や理工系職業に対する理解を促進し興味を喚起して、次代を担う理工系女性人材の育成を目指しています。

※1 総務省「科学技術研究調査」(平成30年)

※2 文部科学省「令和元年度学校基本調査(速報値)」

2. 開催実績

■主なイベント内容

〈企業〉

- ・職場見学、現場見学、工場見学
- ・職業体験、ワークショップ、実験
- ・先輩女性社員との交流 等

〈大学〉

- ・実験教室
- ・サマースクール、サイエンスキャンプ
- ・シンポジウム、セミナー 等

〈学術団体、その他〉

- ・実験教室、体験学習
- ・サマースクール
- ・シンポジウム 等

■イベント数

合計：100団体、179イベント

〈イベント実施団体数〉

企業	大学等	学術団体等	その他
49	29	5	17

今年度は、一見理工系と関連が無さそうな分野、業種や職種においても多くのイベントが開催され、AI、IoT等急速に進むイノベーションを支える多様な視点や発想を持つ人材が求められてきていることがうかがわれました。

3. 参加者の声

参加者からは、イベントで理工系への理解や興味喚起が得られたと、高い評価をいただきました。

「イベントスタッフ(女性エンジニア)から業務内容を聞くことで、具体的な職業のイメージが持てた。」

「コピー機が静電気を使って印刷されている事、日常の様々なところで理工知識が役に立っている事がよく分かった。」

「保険会社とITはどのようにつながっているのかイメージしにくかったけれど今後社会のあらゆる面で、どんな会社に入ってもIT技術が役に立つことがわかりました。」

「大学ではいろいろな研究をしていることが子ども達にもよく分かるイベントだった。また、研究者として女性が活躍している現場を目にすることができ、今後の進路選択にも生かしてもらいたい。(保護者)」

「『理系』と一口でいっても、多種多様な分野で枝分かれしていて、奥の深さを感じた。自分の好きなことを研究し、社会に貢献できるのはやはり理系だからこそだと感じた。」

「自分の得意不得意で理系文系選択するのではなく、自分が好きだと思ったことに関係する分野を選べばよいのだと学べてよかったです。『迷ったのはチャンスだと考える!』を大事にしたいと思いました。」



水害について学ぼう！
～水害から生活を守る工事現場を見に行こう～
(三井住友建設)



マッキー先生の算数教室～正多面体をつくってみよう！～
(芝浦工業大学)



ダック理系のお仕事体験企画～スマホアプリを作ってみよう～
(アフラック)



夏のリコチャレ企画「生命科学分野の分析実験を体験しよう！」
(日産化学)



クルマづくりを見て、触れて、体験！
～夏のリコチャレ2019 職場見学会～
(トヨタ車体研究所)



ドボジョと土木現場体験！
(土木技術者女性の会)



**「自分らしく」あるために～
家庭でも仕事でも、明るく伸びやかに。
感謝の気持ちと慈しみの心を大切に。**

加古川刑務所分類教育部
主任矯正処遇官(教育担当)

生多 マキ氏

刑務官とは、国民生活の基盤である治安を支え、罪を犯した者を更生に導くことにより再犯を防止し、もって安心・安全な社会を築くという使命を果たす国家公務員です。現在、約17,500名の刑務官が全国各地の刑事施設(刑務所、少年刑務所又は拘留所)において勤務に励んでいます。

矯正の世界に飛び込んで、約17年が経とうとしています。刑務所とは、受刑者を改善更生させ、円滑な社会復帰に導く場所であり、「受刑者の改善更生」に向けて、私に何ができるのか、という期待と不安の中、17年前に刑務官としてのスタート地点に立ちました。

採用後、数年間は、目の前の業務を行うことに必死で、「受刑者の改善更生」について考える余裕もなく、また、自己の未熟さから、うまく受刑者と接することができずに無力感を覚えることが多々ありました。キャリアアップを考えるようになり、平成19年、初級幹部職員を目指し、約3か月間の中等科研修を受けました。

その後、結婚、第一子出産後の育児休業、転勤、第二子出産後の育児休業を経て、職場復帰し、平成30年に初級幹部である主任矯正処遇官に昇任しました。

初めての主任業務は、男性受刑者の処遇(刑務所内での生活全般等の指導)担当であり、異性の処遇という高いハードルを、どのように超えたらいいのか分からずに悩んだ1年間でした。また、現場勤務は突発的な事案も多く、夫には次男の保育園の送迎から家事全般に亘って負担を掛けることが多くなってきて、働き方について、真剣に考えるようになりました。



今年の4月、分類教育部(教育担当)に異動となったのを機に、育児支援制度の利用を開始し、午前9時から午後4時半までの勤務(1日に1時間の育児時間を取得)をしています。育児に費やす時間が増えたこと

で、子どもの精神状態も安定し、自分の気持ちにも余裕が持てるようになりました。夫は趣味の空手にも通えるようになりました。

現在、刑務所の教育担当を受け持ち、「受刑者の改善更生」に密接に関わることができ、とてもやりがいを感じています。週に1時間、新入の男性受刑者に対して、「刑務所における改善指導(犯罪の責任を自覚させたり、社会生活に適応するために必要な知識や生活態度を習得させる指導)」について講義を行っています。私が直接受刑者と接するのは、この講義のみなので、何か心に残るような指導ができたらと思い、日々工夫を凝らしながら指導を行っています。

このように、私らしく伸びやかに勤務ができるのも、上司や同僚の理解があるからこそです。また、改善指導には、職員をはじめ、公認心理師などのカウンセラー、大学関係者等多くの方が関わってくださっています。

周りの全ての人に感謝の気持ちを忘れず、これからも自分自身を磨き、社会に貢献できるよう、「受刑者の改善更生」に向けて、全力を尽くします。



○法務省ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei_kyousei13.html



公務員の世界でも女性活躍はどんどん広がっています。今回は公務員の仕事の中でも、特に最前線の現場で活躍する女性3名に、女性ならではの視点を交え、仕事のことを語っていただきました。



動物検疫と私 ～男女半々の職場から～

農林水産省動物検疫所 沖縄支所検疫課
太郎良 陽子氏

動物検疫とは、外国から輸入される動物・畜産物などを介して家畜の伝染性疾病が国内に侵入することを防止するほか、外国に家畜の伝染性疾病をひろげるおそれのない動物・畜産物などを輸出することによって我が国の畜産の振興に寄与しようとするもの。全国に28箇所の動物検疫所が設置され、105か所の空海港において検査を行っています。

動物検疫所では、海外から動物の病気が侵入することを防ぐために検査を行っています。

検査の対象は、牛や豚等の家畜やその畜産物をはじめ、犬・猫等の愛玩動物や、こい・金魚等の水産動物まで多岐に亘り、検査場所も空港や港、係留施設(動物の隔離検査を行う)等、様々です。

一般の皆様には、空港で働くビーグル犬がお馴染みかもしれません。彼らは、検査対象物の肉製品等を探知する「動植物検疫探知犬」です。その活動は、空港内に留まらず、郵便局での国際郵便物の探知、小学校での出前授業や各種イベントへ赴く宣伝部長でもあります。動物検疫の活動は、意外と身近な場所でも行われているのです。



新石垣空港における広報キャンペーンにて

動物検疫所の職員は国家公務員で、通常、3～5年毎に全国転勤を行います。日頃、外国人と接する機会が多く、語学堪能な職員も在籍していますが、私を含め大多数の職員は、業務上必要に迫られ、入省後に勉強しています。

また、女性が多い職場(女性比率50.8%※)である

ことも特徴の一つです。シフト勤務や泊り勤務、出張等もありますが、職員間また各家庭で調整し、対応しています。



クルーズ船における船内検査風景

さらに、女性職員だけでなく、男性職員も育児休暇を取得するようになり、特に管理職が率先して取得し、部下が後に続く雰囲気醸成しています。近い将来、介護休暇を取得する職員も増加していくことが予想されますが、介護理由の退職者を出さず、お互い協力していけたらと思います。

私の勤務している沖縄支所では、主に旅客の携帯品検査や、国際郵便物の検査及び犬猫等の輸出検査を行っています。沖縄県はクルーズ船入港数が全国一多い県であるため、その検査のため、出張が多くなっています。

私自身は、中学生と小学生の親であり、頻繁に家を空けるのは心苦しいですが、家族の協力と便利家電の力を借りて対応しています。

子供が小さい頃は、一日をやり過ごすことで精一杯でした。子供はしょっちゅう病気になるし、年休はギリギリ、仕事も家庭も中途半端であちこちに頭を下げて疲労困憊。

そんな頃、保育園で子供が熱を出し、早退を申し出た際の上司から一言「旦那さんが迎えに行けないの？」以降、何でも交渉してみるという技を身に着けたのでした。

女性は、結婚、妊娠、出産等、様々な出来事に仕事の継続を阻まれることがありますが、諦めない凶太さが肝心だと思います。



海外から来航するヨットへの検査・指導も行います

(※2019年4月現在 動物検疫所調べ)

○農林水産省動物検疫所ホームページ
<http://www.maff.go.jp/aqs/>



活躍する女性たち～公務員の現場から

内閣府男女共同参画局総務課



「女性の感性を武器に ～職務質問」

警視庁地域部地域指導課 職務質問指導班
石丸 百合子氏

地域警察官は、地域の安全・安心を守り市民に頼りにされる存在で、交番勤務やパトカー勤務を通じて、最も身近な存在として活動します。パトロールや防犯活動、職務質問による犯罪検挙、事件・事故発生時の初動警察活動のほか、地理案内や遺失届・拾得物の受理、相談対応など、地域の安全・安心に大きな役割を果たしています。また、警視庁においても警察官の約10%が女性警察官であり、近年、被害者や被疑者も女性が増加してきている中で、女性警察官が適正業務に必要な不可欠な存在になっています。

『職務質問』という言葉聞いて思い浮かぶのは、男性警察官の姿ではないでしょうか。警視庁警察職員約4万6千人のうち、地域警察官は約1万5千人、そのうち女性警察官は約1千人ほどですが、女性が職務質問の分野で活躍することが、まだまだ浸透していないのが現状です。



私は現在、地域部地域指導課職務質問指導班で、職務質問指導者の一人として、各警察署やパトカーで専門的に職務質問をする自動車警ら隊等へ派遣され、職務質問の指導をしています。私がこの職務質問の仕事をするようになったのは、自動車警ら隊に異動したことからです。

それまで地域部門での勤務経験がなかったため

『職質のプロ』への異動は青天の霹靂でした。現場に出ると、「ブス!」「クソババア!」などと罵倒されるのは日常茶飯事で、男性と同じことをしても、女ということでなめられ、悔しい思いばかりしていました。そこで、強がって男性警察官と張り合うのではなく、自分自身が持っている女性の特性を活かした職務質問をやってみようと視点を変えてみました。



女性特有の会話能力、洞察力、きめ細やかな対応を武器に職務質問に取り組んだところ、自ら犯罪を自供したり、素直に所持品検査に応じる者が増えるなど、女性警察官でも『職務質問』ができることを示すことができました。今では現場の男性警察官から頼りにされることも増え、大変やりがいを感じています。男女の特性を尊重しつつ、互いの能力を発揮することで、一人でも多くの犯罪者を検挙することを目標に、日々邁進しています。職務質問は既に発生した犯罪の犯人検挙だけではなく、未然に犯罪の発生を防止できる警察官の武器と言っても過言ではありません。この職務質問の大切さを伝え、自ら行動する逞しい警察官を一人でも多く育てることが私の仕事です。

現在、当庁だけではなく、他県警察の女性警察官にも、自分の経験を活かした職務質問の指導をする場を頂いています。全国の女性警察官で情報交換のネットワークを作り、警察組織全体を盛り上げていければと思っています。

行政相談委員の仕事

内閣府男女共同参画局総務課

行政相談とは、医療保険・年金、雇用、道路、社会福祉、交通機関など、行政分野の幅広い苦情や意見・要望に対して、その解決や実現を促進するとともに、行政の制度や運営の改善に生かす仕組みです。行政相談委員は、総務大臣から委嘱され、国民のみなさんの相談相手として、行政サービスに関する苦情、行政の仕組みや手続きに関する問い合わせなどの相談を受け付け、相談者への助言や、関係行政機関に対する改善の申入れなどの仕事を行います。（本号裏表紙に、行政相談の告知ポスターを表示しています。）

今回は、仙台市で行政相談委員として活躍している鈴川氏に、子育て中の母親を対象とした行政相談委員活動やその悩み、やりがいについて、お話を伺いました。



「子育て支援行政相談懇談会を開催して」

行政相談委員(仙台市担当)

鈴川 眞子氏

平成25年に行政相談委員となって早6年。よく聞かれる言葉に『行政制度に関する相談でなければいけないのですか』という一言があります。

『どこに相談の小さな芽があるか分からない』と研修で教えていただいたものの、相談のきっかけ作りをはじめ、未だ試行の日々です。

そんなある日、学童保育を行う児童館館長から、お迎えに来るお母さん方の悩みを聞いてもらえないか、と相談されました。「お迎えのわずかな時間に相談される様々な悩みに、職員は若く、独身者も多く、なかなか悩みを共有できず応えられないもどかしさがある」と。館長の切実さが伝わってくる反面、育児に関する相談に終始するのでは、という不安もある中、子育て支援行政相談懇談会の開催を決めました。

当日、お母さん方に行政相談を紹介する広報用DVDを視聴してもらった後、懇談を始めました。しばしの沈黙が続き、『行政』の響きの硬さを懸念した時、手が挙がりました。「近所の公園の事でも構いませんか？」



この一言をきっかけに、公園の砂場整備や清掃の要望。通学路への信号設置の要望。地下鉄開業で減便となったバスの不便さ。点字ブロックの位置の違い。ベビーカーを押して知った歩道と車道の段差の危険や不便さ。保育所入所の判断基準の不明瞭さ。お母さん方自身が病気にかかり、仕事帰りに通院する際の延長保育ができない不便さ。未就学児が利用できない児童館への利用要望。出産・育休後の労働条件の悪化。そして、子どものために仕事を制約せざるを得ない現状に対する同僚独身女性の不寛容な言葉まで。堰を切ったように発言は続き、予定時間は瞬く間に過ぎていました。

これが縁で他の児童館でも、子育て支援行政相談懇談会を開き、転勤してきたお母さんから、当地の一時預かり保育の利用条件が厳しく不便といった意見等に、私自身も当地の子育て環境を詳しく知る機会を得ました。

お母さん方からは、相談窓口が分からず困っていた問題の解決の糸口が見えた安心感、子連れで行ける近所での開催の気軽さ、行政から丁寧な回答がもたらえた驚き、そして、感謝の声を伝えられ、これからも、お母さん方の真剣な目線に向き合っ、この懇談会を続けていこうと思えた瞬間でした。



News & Information

1

News

文部科学省

2019年度
「男女共同参画推進フォーラム」実施

国立女性教育会館(NWEC)では、標題のフォーラムを8月29～31日に実施、今年も1,200人を超える方々が集まりました。

特別講演・トークセッション

「日本国憲法に女性の権利を～母ベアテ・シロタ・ゴードンの願い～」には、約800名が駆けつけて、ベアテさんのご長女ニコール・A・ゴードンさんから、ベアテさんの憲法草案に込めた思いやその後の日本との関わり、個人の尊重と男女平等の保障を提案した功績を学びました。シンポジウム「基本法から20年～今こそチャレンジ！政治分野への女性の参画～」では大沢真理東京大学名誉教授の解説で男女共同参画社会基本法成立以降の歩みを振り返り、3人のシンポジストを交え政治分野への女性の参画拡大について考えました。その他「多世代ワールドカフェ100人会」や、全国の民間団体・大学などによる47件のワークショップと9件のパネル展示など多くのプログラムが実施され、大盛況のうちに幕を閉じました。



2

News

文部科学省

「女子中高生夏の学校2019
～科学・技術・人との出会い～」実施

国立女性教育会館(NWEC)では、8月9日～11日に標題の研修を実施。今年で15年目を迎える夏学には、全国から理系進路に興味をもつ女子中高生101名が参加しました。



参加者たちは、社会で活躍する女性研究者から話を聞き、各学会や団体の実験や実習ポスター展示を見学し、理系の魅力や理系進路の多様性を感じていました。また、スタッフや参加者同士で交流するプログラムも多く、理系で学ぶこと、働くことの意義について理解を深め、自身のキャリアプランを考える機会を得ることができました。

参加者からは「多くの分野の人から具体的な話が聞けて、進路の幅がとても広がった」「自分の目標に対して勇気と自信が持てた」等の感想が寄せられました。

詳しくは、こちらをご覧ください。

HP https://www.nwec.jp/event/training/g_natsugaku2019.html



3

Info

内閣府

国・地方連携会議ネットワークを活用した
男女共同参画推進事業の開催

内閣府男女共同参画局では、男女共同参画推進連携会議、同会議構成団体等とともに、男女共同参画に関する理解を深めるため、全国各地でシンポジウムを実施しますので、奮って御参加ください。(参加費無料)

※シンポジウムの詳細・参加申込みについては男女共同参画局ホームページに掲載しています。

HP <http://www.gender.go.jp/public/event/2019/index.html>



〈開催案内〉

- 「来たれ、リーガル女子！～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう～」
(日本弁護士連合会等との共催)

日時 令和元年11月3日(日・祝) 13:00～17:00

会場 名古屋大学アジア法交流館(ほか4ヶ所で中継実施)

定員 150名

- 「地方における大学、行政、企業の連携による多様な人材・活躍に向けて」
(島根大学等との共催)

日時 令和元年11月18日(月) 14:00～16:30

会場 島根大学松江キャンパス ホール 定員 300名

- 「男女共同参画社会の共創～生活者・企業・行政で創る九州／関西の未来～」
(日本ヒーブ協議会等との共催)

〈福岡〉 日時 令和元年12月4日(水) 13:30～16:30

会場 アクロス福岡円形ホール 定員 100名

〈大阪〉 日時 令和2年1月17日(金) 13:30～16:30

会場 日本生命本店東館ホール 定員 200名

- 「“生活を豊かにする”働き方改革講演会・交流会 ～働きやすい、暮らしやすい男女共同参画のまち“静岡”について考える～」
(静岡市女性活躍推進協議会等との共催)

日時 令和2年1月24日(金) 14:30～17:30

会場 MIRAIE リアン 定員 150名

- 「女性起業家と企業の取引・協業の最新事情を知る ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんですー WEPs(女性のエンパワーメント原則)の実現に向けてー」
(お茶の水女子大学等との共催)

日時 令和2年2月20日(木) 13:00～15:30

会場 梅田スカイビル スカイルーム 定員 150名

あついあつい夏も終わりを
見せ始め、ショーウィンドーもすっ
かり長袖やモフモフしたお洋服
に衣替えされてきました。そんな
季節の変わり目でも、女性たち
は至る所で活躍しています。今
月号では、こんなところでも女性
が活躍しているの?と思われるよ
うな、様々なお仕事現場につい
てご紹介しています。ご紹介し
た方々の職場では、まだ女性は
少数派のところが多いですが、
彼女たちをはじめ多くの女性が、
少しずつ道を切り拓いていって
います。女性が活躍できる現場
ではないから、と諦めるのではな
く、どうしたら活躍できる現場に
変えられるか、と考え挑む姿に
は、勇気づけられますね。

そして、みなさん!表紙は誰な
のかお気づきでしょうか。理工
系分野に興味がある女子中高生
のみなさんを応援している「理
工チャレンジ」イメージキャラク
ターの「リコちゃん」でした。様々
なアイコンでリコちゃんを表現す
るのは、苦勞も伴いましたが、お
気づきいただけましたらうれし
いです。

(編集員:自称リコちゃんファン)

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」10月号

 <http://www.gender.go.jp>

 <https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>

第127号 ◆ 2019年10月10日発行
編集・発行 ◆ 内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話 ◆ 03-5253-2111(代)
印刷 ◆ 株式会社ドウ・アーバン
表紙デザイン ◆ 株式会社外為印刷

4 Info

文部科学省

2019年度「学校における男女共同参画研修」開催

国立女性教育会館(NWEC)では、学校現場や家庭が直面する現代的課題を男女共同参画の視点から捉え、理解を深めることを目的とした標記研修を開催します。



この研修では、男女共同参画の基本について学ぶとともに、自身の働き方や子供たちとの接し方について振り返り、学校現場の背景にある社会問題を俯瞰し、様々な問題を解決するヒントを探ります。

日程 11月21日(木)～22日(金)1泊2日 ※日帰り参加可

会場 国立女性教育会館(埼玉県比企郡嵐山町菅谷728)

対象 教育委員会など教職員養成に関わる機関の職員、小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校前期課程の管理職及び教職員(国公立、私立) 50名

参加費 無料(宿泊費:1,200円/1泊、食事代別途)

申込 9月24日(火)～11月14日(木)17:00



詳しくは、こちらをご覧ください。

HP https://www.nwec.jp/event/training/g_kyoin2019.html

5 Info

厚生労働省

里親制度をご存じですか?
～10月は「里親月間」です～

里親制度はさまざまな事情で家族と離れて暮らす子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解を持って養育する制度です。

厚生労働省では毎年10月を「里親月間」として、社会全体で支援する気運を高めるため、里親制度に関する普及啓発を重点的に行っています。

期間中には、全国各地で里親制度の説明会や里親経験者による体験発表会などのイベントを行っています。子どもたちの健やかな成長のため、そして明るい未来のために、あなたも参加してみませんか。



里親制度や月間中のイベント情報については
厚生労働省ウェブサイトをご覧ください。



行政に関する困りごとはありませんか？



困ったら一人で悩まず

行政相談



Hello Kitty
©1990, 2019 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL No.000000

行政相談マスコット
キクーン



行政
相談
総務省行政相談センター
まくみみ

社会福祉 医療保険や年金 道路や公共施設 役所の手続き のことなど、お気軽にどうぞ。

ご相談は、お近くの行政相談委員へ。または、下記の番号まで。

総務省行政相談センター

お こま り なら まる まる くじょー ひゃくとおぼん
まくみみ 0570-090110

インターネットでの相談受付もOK ▶ 行政相談受付



相談無料・秘密厳守

10月を中心に、全国各地で
一日合同行政相談所を開設します！
開設場所はこちら⇒



総務省・各府省行政苦情相談連絡協議会